

第5期(2017年度)事業報告概要

1. 「第17回 日韓中テレビ制作者フォーラム」東京大会
上智大学メディア・ジャーナリズム研究所と共催。
テーマ:「田舎暮らし～都市と地方の問題を考える～」
日韓中の制作者やメディア研究者が活発な意見交換を行った。
※ 2018年度は韓国大会(光州市)を予定。
※ 今後のフォーラムの在り方については、別途検討した。
2. 放送人グランプリ
第16回放送人グランプリ各賞 および 第3回大山勝美賞の贈賞
3. 名作の舞台裏
NHK時代劇「陽炎の辻」、ドラマ人間模様「太陽の子～てだのふあ～」(NHK)
4. 人気番組メモリー
「世界ふしぎ発見！」(TBS/制作:テレビマンユニオン)
5. 放送人の世界
2017年度は実施せず。2018年度の実施について検討中
6. 放送人の証言
大治浩之輔、河野祐一、飯島敏宏、露木茂、杉山茂、皇達也
7. ドキュメンタリーワールド
「放送人の証言」LIVE“人間稼業”としてのドキュメンタリーづくり(市岡康子、大治浩之輔)
8. 放送人句会
会員交流の場として隔月開催し、作品は会報に掲載。
季語のほか、「業界用語」を題にするのが特色
9. ラジオプロジェクト
「ラジオ聞き酒の会」を5回実施。
「ボブ・ディラン ノーベル文学賞受賞記念特番～時代は変わる～」(FM東京)など
話題の番組を聴き、ラジオ界の情報交換を行った。
10. 広報
・会報 3回発行(①総会/放送人グランプリ特集、②日韓中テレビ制作者フォーラム東京大会、
③新年号+放送人グランプリ下馬評座談会)
・ホームページ タイムリーに更新し、活性化を図っている。
・フェイスブック イベント企画の告知を中心に適宜アップ。
11. 総務
会の活動全般を把握し、運営の円滑化に努めている。
老朽化したノート型パソコンを更新するなど、事務局体制を整備した。

<全般>

- 日韓中フォーラムなど活動が活発であった。財政面では大山基金を有効活用した。
- 会の活動は多岐に亘っている。今後も各活動に多くの会員の積極的な参加を期待する。
- 会報および理事会議事録に活動状況を詳しく載せている。是非お読みいただきたい。